



令和 3 年度

# 学 校 評 価

秋田県立秋田中央高等学校

## **教育目標・教育方針・重点努力目標**

### **1 教育目標**

人格の完成を目指し、自主的な活動をとり、友愛の心を持ちつつ理想を掲げて躍進を図る生徒を育成する

### **2 教育方針**

- (1) 豊かな人間性や社会性を育み、二十一世紀を逞しく生き抜く能力の育成に努める
- (2) 自ら学び、自ら考え判断し、行動できる資質や能力の育成に努める
- (3) 基礎・基本の着実な定着をもとに学力の向上を図り、個性に応じた進路希望の達成に努める

### **3 目指す生徒像・生き方**

高い目標を掲げて、主体的に考え方行動する生徒

### **4 重点努力目標**

- (1) 授業改善による学力の保証と進路目標の実現
- (2) 特別活動の目標の達成
- (3) S S H事業のさらなる広がりと深化
- (4) 創立100周年記念事業の成功

## **学校関係者、学校評議員**　※敬称略

1	後藤慎隆	教育振興会会长
2	竹下博英	一交会会長、秋田県議会議員
3	八柳泰輔	P T A会長
4	加賀屋満	一交会副会長、元秋田県教育庁総務課施設整備室室長
5	石黒みどり	元秋田県立五城目高等学校校長、元本校教頭
6	戸島義夫	秋田県バスケットボール協会医科学委員会副委員長
7	景山貴志	秋田銀行営業推進部、元本校P T A会長
8	永吉武志	秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科准教授

## 目 次

教育目標・教育方針・重点努力目標

学校関係者、学校評議員

### ■各部

総務部  
教務部  
進路指導部  
生徒指導部  
特別活動部  
保健部  
図書視聴覚部  
研究部

### ■各学年

1年部  
2年部  
3年部

### ■各教科

国語科  
地歴・公民科  
数学科  
理科  
保健体育科  
芸術科  
英語科  
家庭科  
情報科

# 令和3年度の反省

## 学年部

① 1年部

② 2年部

③ 3年部

## 教 科

④ 国語科

⑤ 地歴公民科

⑥ 数学科

⑦ 理科

⑧ 保健体育科

⑨ 芸術科

⑩ 英語科

⑪ 家庭科

⑫ 情報科

## 分 掌

⑬ 総務部

⑭ 教務部

⑮ 進路指導部

⑯ 生徒指導部

⑰ 特別活動部

⑱ 保健部

⑲ 図書視聴覚部

⑳ 研究部

<b>重 点 目 標</b>	(1) 充実した学校生活を送るために、基本的な生活習慣の確立と自己管理力の向上を図る。 (2) 個々の興味や特性を踏まえて具体的な進路目標を設定し、自主的・意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 (3) 諸活動に主体的に参加し、他者との協働を通して目標実現を目指す生徒を育てる。
----------------	--

<b>目標達成のための具体的な手立て(方法)</b>	(1) 学年集会等での全体指導や、ホームルーム等での日常的な声かけを通して、生徒自身が集団生活のルールを守る大切さを理解し、集団の一員として適切な行動ができるよう働きかける。行動観察や面談等を通して各生徒の理解に努め、学年スタッフで情報を共有し、連携して対応する。 (2) 進路行事を計画的に位置付け、その指導を通じて将来の展望をもたせる。文理選択における面談等を充実させ、適切な道筋をつける。定期考查や模試の結果から各生徒の課題を見つけ、教科面談等を通じて具体的な指導を行う。学習時間調査で生徒の学習時間を可視化し、継続的な学習の励みとする。 (3) ホームルーム活動や学校行事、部活動等の機会を通して、生徒が主体性や仲間との協働を意識するよう働きかける。SSH探究活動やプレゼンを通して、生徒が問題解決に継続して取り組み、達成感を得られるよう支援する。
----------------------------	--

<b>目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子</b>	(1) 基本的生活習慣が確立し、自律的に生活する力が身に付くことで、充実した学校生活を送ることができる。 (2) 自ら進んで学び続ける意欲が高まり、個々の目標に沿った学力が定着すると共に、学年全体で粘り強く進路実現に向かう雰囲気が醸成される。 (3) 何事にも主体的に取り組み、他者と適切にコミュニケーションを図りながら前向きに挑戦する姿勢と実践的な態度が培われる。
---------------------------------	---

<b>具体的な取組状況</b>	(1) 学年集会等での全体向けの指導に加え、正副担任・教科担任・部活動顧問などで各生徒の学校生活や学習に対する姿勢、部活動での様子を共有した。 (2) 進路講演会や成績分析会を通じて生徒の進路意識を高めた。確認テストや英単語選手権等、各教科が工夫して学習意欲を喚起した。定期考查に向けてスタディジョギングを実施し、学年全体で学習する雰囲気の醸成を図った。 (3) 各学校行事が順調に実施された。学年ではSSHミニ課題研究発表会、絵本紹介ビブリオバトル等を実施し、生徒が主体となって活躍する場面を設定した。
-----------------	--

<b>達成状況</b>	(1) 多くの生徒が概ね良好な学校生活を送っているが、今年度から始まった一人一台タブレットの使用状況については課題が見られる。 (2) 課題等に対して真面目に取り組んでいるが、主体的・自主的な学習姿勢の育成にはまだ至っていない。高い進路目標をもった集団作りも課題である。 (3) 各行事を通じて、主体性や積極性、他者と協働する姿勢が育ってきている。
-------------	--

<b>自 己 評 価</b>	(評価) B	(1) 生徒の実情や問題に寄り添い、組織的な対応・支援ができた。 (2) 学習に対する勤勉さを喚起する取組がさらに必要である。 (3) 各活動の見通しの持たせ方、振り返りの方法に工夫が必要である。
----------------	-----------	--

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<b>学校関係者の評価と意見</b>	(評価) A	学校生活全般に配慮ある指導が行われている。また探究力の向上に向けたカリキュラム等に工夫が見られる。
--------------------	-----------	---

<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>	(1) 他者との協働的な学びや自学力を高める手立てとして、一人一台タブレットを十分に活用する。 (2) 今年度取り入れた Classi (ベネッセ) や Google を授業等の自己評価を効果的に取り入れることで、振り返りの質の向上を図る。
------------------------------	---

P

D

C

C

A

<b>重 点 目 標</b>	(1) 人を傷つけない優しい気持ちと傷つかない強い精神力を養う。 (2) 自己認識を更に深め具体的な進路目標を掲げ、学問への真摯な取り組みと学力向上を図る。 (3) 個々の能力と特性を効果的に活かすことで、共に高め合える集団を育成する。
----------------	--

<b>目標達成のための具体的な手立て(方法)</b>	(1) 学年集会等の講話や学級通信を通して日常的に呼びかける。また、定期的な面談や困りごと調査において挙がった生徒の悩みを見逃さず、深く踏み込んだ指導を実践する。 (2) 成績上位者のグループを作り、互いに切磋琢磨できる状況を作り上位者の強化を図る。考査前にはスタディジョギングを企画し、幅広い層に定期考査の支援を行う。各種アンケート、模擬試験の結果で検証を図る。 (3) HRでの面談を重視し、生徒の能力と特性の把握に努める。朝はClassiの学習時間記録を習慣化し、自己管理能力を高める。また、ポートフォリオを活用し、自己の特性を把握させ、学校行事や日常生活において為すべきことを判断し行動できる能力を身につける。ポートフォリオの生徒記述で検証する。
----------------------------	---

<b>目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子</b>	(1) 人間関係によるトラブルが減少し、すべての生徒が楽しく安心して学校生活を送ることができる。 (2) 学年全体で学習意欲が高まり、学力が向上する。 (3) クラスの個性と学年の個性が現れ、明るい雰囲気が醸成される。生徒個々の自己認識が高まるため、自己の特性を活かした進路選択に資することができる。
---------------------------------	--

<b>具体的な取組状況</b>	上位者対策として、Nプロジェクト（難関大対策）とKプロジェクト（国公立大対策）を立ち上げた。定期考査前は1年次から引き続きスタディジョギングを行った。Classiを活用した学習時間記録を習慣化した。
<b>達成状況</b>	Nプロ（19名）Kプロ（44名）が参加し、Classiを活用した予備校講師の学習動画やWEBテストを実施。スタディジョギングは毎回10名以上の参加。

<b>自 己 評 価</b>	(評価) B	直近の模擬試験では過去4年間で最も高い成績である。だが、学習時間の二極化が進んでしまっており、学年全体の学習に対する意識向上が必要である。
----------------	-----------	---

↑ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ 評価基準 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<b>学校関係者の評価と意見</b>	(評価) A	上位者対策やスタディジョギングなどは一定の成果をあげている。次年度に向けて期待できる。
--------------------	-----------	---

<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>	○「共に高め合える集団の育成」に向けて、学年部だけでなく、大学などとも連携して、これまでの実践を生かした継続的取組を行う。 ○学校生活の「安心」を念頭におきながら、生徒個々の進路実現のために、生徒の状況に応じた粘り強い指導を、保護者とも協力しながら進める。
------------------------------	---

重 点 目 標	(1)最高学年としての自覚を持たせ、諸活動を協働的に取り組み、100周年記念事業の成功へ貢献する態度を養う。 (2)進路目標の達成に向けて、自主的・継続的に努力する姿勢を養う。 (3)社会で活躍するための精神的成长と自立への支援をする。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)授業をはじめとした様々な場面で、集団の一員として自覚と責任のある言動ができるように促す。学校行事や100周年記念事業を通して、最高学年としての意識を高める。 (2)システム手帳を活用し、自己管理能力の強化を図る。適時に面談を行い個々の生徒の状況を把握し、進路目標達成のための計画を立てて学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。全体指導と個別指導のバランスをとりながら受験指導を行う。成績上位者のグループを形成し、互いに切磋琢磨できる環境を作り上位者の強化を図る。さらに、放課後講習を早期から開催し受験に対する学力向上と意識を高めていく。 (3)進路に関する講演会や主権者教育などのキャリア教育を通して、社会人としての基盤を作る。
---------------------	---

目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1)集団のリーダーとしての自覚が身に付き、中央生としての「繋がり」を強め、友愛の精神をさらに高め、充実した学校生活を送ることができる。 (2)学年全体で学習意欲が高まり、学力が向上する。計画的に学力を高めることで、焦らずに最後まで粘り強く進路目標に挑み続けられる。 (3)自立することへの不安が和らぎ、社会人としての責任感がさらに強くなる。
----------------------	---

具体的な取組状況	担任だけではなく学年部職員全員で生徒観察や声かけ等こまめに行つた。上位者講習(7:30～)や放課後講習、長期休業講習を実施した。総合型・学校推薦型入試の小論・面接対策のガイドanceおよび個別指導を実施した。
達成状況	H R活動や学校行事・部活動等を通して、自分の役割を果たす責任感や、協働的に取り組む態度が醸成され、集団のリーダーとしての意識が高まった。秋頃から少しではあるが徐々に成績が伸びてきた。上位者対策のおかげもあり東北大Ⅱ期に5人(含医学科1人)出願し、1人合格。

自己評価	(評価) B	組織的に取り組んだが、延べ約180人が総合型・学校推薦型入試へ出願したため、指導が多岐に渡り対応に苦慮した。学習への取り組み方は、自分で考え進路目標達成のために計画的に進められるようになってきた。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓  
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	総合型・学校推薦型入試への組織的な取組は評価できる。小論・面接対策など個別対策が充実していた。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者による改善策	○進路実績向上のために、今年度の成果と課題について学年間の情報交換を密に行うことで、多様な生徒の意向に沿った進路指導を計画的に行う。 ○進学と就職の指導をバランスよく行うことで、キャリア教育の充実を図り、生徒に人間力と学力の向上の意識を促す。
-------------------	--

P

D

C

C

A

重 点 目 標	(1) 予習・復習を主体的に行って授業に臨み、自らの課題を解決する姿勢を培う。 (2) 文章読解に必要な基礎事項の定着をはかり、文章を的確に理解し評価する力を育成する。 (3) 自分の考え方を論理的に表現する力を育成するとともに、相手の考え方を尊重し理解する力を高める。
---------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 授業の終わりに質問を受け付け、未解決の疑問を解決させる。 ・予習・復習の取り組みをノート等で確認し、適時声かけをする。 (2) 小テストや演習で基礎的事項を繰り返し確認する。 ・文章の図式化や本文への書き込みにより全体構成を把握させる。 ・文章の内容を要約し、評価して文章にまとめさせる。 (3) グループワーク・話し合い・発表を通して根拠を明確にして自分の考え方を述べさせる。同時に、相手の考え方を理解し尊重しながら評価させる。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 主体的な学習が習慣化し、課題を解決する力が培われる。 (2) 基礎事項が定着し、文章を正確に理解し評価する力が育つ。 (3) 自分の考え方を論理的に表現する力が育つとともに、相手の考え方を尊重し理解する力が高まり、考えをより深められるようになる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 予習プリントの工夫、ノート及びワークチェックの徹底、考査・模試の振り返りシートにより、弱点や疑問の解決を図った。 (2) 小テスト(漢字・文法・古語単語)の実施、図式化・要約・記述カード等により基礎事項の定着と理解力の育成を図った。 (3) グループワークとICTの活用により考え方の深化を図った。
----------	---

達成状況	(1) 各自の課題解決の達成は学年間で差がある。 (2) 意欲的に取り組む生徒は力を伸ばしているが、個人差がある。 (3) 日常的な実施と二度の研究授業を通して活性化が図られた。より深い思考へと発展させることが課題である。
------	---

自己評価	(評価) B	各学年とも意欲・学力に個人差が大きく、全体の底上げと、上位者の育成が課題。情報交換を密にし、各学年の効果的な指導を参考にしていきたい。
------	-----------	---

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	基礎学力定着のための地道な指導は行っているが、生徒の学習意欲や取り組み方に個人差があることから、学力差を緩和する授業改善に取り組む必要がある。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○授業での課題設定や発問の工夫によって、生徒の思考力を育成する授業を構想する。 ○適切な評価を行うことで、生徒の学習意欲の喚起と維持に努める。 ○ICTを活用した対話的な学びの研究実践を継続的に行う。
-----------------------	--

P

D

C

C

A

重 点 目 標	(1) 現代社会の諸問題と授業内容とを関連させ、生徒が主体的に探究できる授業づくりに努める。 (2) 中学校での既習事項も含め習得した知識を活用し、さらに深化させるとともに他者と協働して学び合い、自身の考えを表現する力を養う。 (3) 一人ひとりの進路目標の実現に向け、大学入学共通テスト実施も踏まえて確かな学力を保証出来るような授業改善を行う。
---------	---

目標達成のため具体的な手立て(方法)	(1) 新聞等を通して現代の諸課題に気づかせ、授業内容を関連づけて展開する。また問題を多面的にとらえるために、諸資料を収集、活用する機会を提示する。 (2) 発問の工夫、ICT機器の活用を通して授業改善をはかり、個人で考え、グループ内で共有し、発表させることで、授業内の言語活動を活発にする。授業に参加する姿勢、プリントや考査問題記述内容などによって検証する。 (3) タブレットを活用して復習の徹底をはかり、基礎的・基本的事項の定着をはかる。また、開かれた授業作りを目指し、教員間で互いに意見を交換するような機会を設ける。
--------------------	--

目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) (2)共通 社会人として役立つ知識やものの見方、思考力、表現力を身につけることにより、めまぐるしく変化する社会に対応できる人間になる。生徒が授業内容に対する興味関心を高め、積極的に参加するようになる。また、現代社会の諸事象に対する関心が高まり、課題を見出し解き方を探ろうとする姿勢が身につく。 (2) 学びの中から、新たな疑問点を見いだし、探究しようとする姿勢が身につく。結果、深い理解へつながり、自らの考えを他者に伝わるようになっていく。 (3) 自ら調べ主体的に学習することで、理解が深まり、知識が定着する。校外模試でのSS50以上が60%、同60以上が15%を超える。大学入学共通テストでは全国平均を上回る。
----------------------	---

具体的な取組状況	(1)タブレットを用いて情報の収集・分析をおこなった。 (2)生徒に考えさせる発問に心がけ、グループ・クラスで共有できるような言語活動を伴う授業となるよう努めた。 (3)タブレットを通じ、予め学習課題を伝えたり、復習出来る環境を作るとともに、自学できるような課題の配信をおこなった。
達成状況	(1)時事的問題への関心を高める工夫がさらに必要である。 (2)授業内で積極的にICT機器を活用出来ているが、深い学びにつなげていくための仕掛け・工夫が必要である。 (3)基礎基本の定着度が低く、数値目標を達成することが出来なかった。

自己評価	(評価) B	生徒たちは巧みにタブレットを操作し、学習している姿が見られる。一方で、模試結果を見る限り、知識・理解の定着が甘い。さらなる授業改善に向けた研鑽が必要である。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓  
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	タブレットを活用し学習内容への関心を高めているが、生徒が主体的に情報収集したり発信できる力も育成する必要がある。
-------------	-----------	--

自己評価及び評価に基づいた改善策	○タブレットを用いて学習したことが、生徒の受験学力にどのように活かされているか模試等を活用して分析する。 ○知識の定着とそれを活用した深い理解を図ることで、進路実現につながる学力を育成する。
------------------	--

<b>重 点 目 標</b>	(1) 生徒が主体的に考え、自ら課題解決に取り組む授業を実践することで、生徒の数学に対する意欲・関心を高める。 (2) 3学年に渡った系統的な指導の実現を目指して、科内の情報交換を活発にし、教師個々の指導方法の改善を図る。 (3) 平素の学習を通じて基礎・基本を身に付けられるように、自主的かつ計画的な家庭学習習慣を生徒に定着させる。
----------------	---

<b>目標達成のための具体的な手立て(方法)</b>	(1) お互いの授業参観を積極的に行い、指導法の共有や改善策を話し合うことで、各自の授業力向上とICT機器の活用を実現する。 (2) 科会を定期的に実施することで、学年間で情報や資料を共有し、指導計画や評価基準について科内のスタンダードを構築する。 (3) 数学の基本事項の理解や計算力向上のため、朝学習や小テストを実施する。週末等に課す学習課題に関しては、生徒の取り組み状況を丁寧にチェックし、必要に応じて個別指導を行う。
----------------------------	--

<b>目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子</b>	(1) 授業を見たり、見られたりすることで、教師側に新たな刺激と緊張感が生まれ、授業改善が推し進められる。そのことにより、生徒への働きかけと新たな試みが増え、生徒の学習意欲・関心が高まる。 (2) 他学年の指導状況を全員で把握することで、科としての一貫した指導方針・指導法が形作られる。生徒に対しては、年度や担当者に依らない指導が行われ、安定的に学力が向上する。 (3) 生徒が基本事項を確実に身に付けることで、問題の解法を積極的かつ多面的に考えられるようになる。そして、課題解決における数学の有用性に気付き、数学的な考え方を活かせるようになる。
---------------------------------	---

<b>具体的な取組状況</b>	授業研修会に向けて指導法の工夫やICT機器の活用法について協議を重ねた。その際に評価基準についても共通認識を持った。各学年の実態に即して適宜テストしたり、課題を提示したりして生徒の学習を促した。
<b>達成状況</b>	ICT機器の活用について教員の理解が深まり、授業力の向上に活かすことができた。本校数学科としての指導法や評価基準の共通認識を持つことができた。

<b>自己評価</b>	(評価) A	直近の模擬試験では1, 2年生の平均点偏差値がそれぞれ52.2, 53.2であり、県内4番手に位置している。継続的な授業改善が行われ、生徒の学習に対する意識は向上している。
-------------	-----------	--

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<b>学校関係者の評価と意見</b>	(評価) A	教師間の相互授業参観の取組は授業改善の上で有益であり、数学の学力向上にもつながっている。
--------------------	-----------	--

<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>	○互いの授業に対して意見交換できる環境を維持させることで、授業力の向上を図り、授業方法の工夫や評価の仕方などについての、共通理解を深める。 ○模試の結果を分析することで、生徒の学習状況に応じた適切な指導を行うことで、進路実現を目指す。
------------------------------	--

重 点 目 標	(1) 授業を通して生徒が自然科学に興味・関心を抱き、自己実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を養成する。 (2) SSH事業を通し、生徒が課題を把握し、見通しを持って計画的に観察実験を行い、結果を分析・解釈して探究活動をすることで課題解決能力を養成する。 (3) 大学入学共通テストに関する情報を生徒へ還元するとともに、生徒の共通テストで問われる力を向上させるため、授業を改善する。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) ICTを積極的に活用して生徒の興味・関心を高める。教員どうしで授業を参観し、有用な情報を共有する。 (2) 諸大学との連携を図るとともに、教員が積極的に校内外の研修に参加する。躍進において生徒の探究活動をサポートし、校外へ成果を発信する。 (3) 研究会等に参加して情報収集に努め、試行テストや模試の分析を行う。定期考查や課題テストで作問を工夫する。 以上を授業アンケートやSSHアンケートおよび研究発表活動をもって検証する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 家庭学習量が増え、学力の向上により進路志望が達成できる。 (2) 諸大学の教員・学生や地域との交流が進むことで、生徒の課題研究へのサポート体制が構築され、秀逸な探究活動が期待できるとともに、主体性が養われる。 (3) 思考力・判断力・表現力が鍛えられ、共通テスト、二次試験に耐えうる力が身に付く。
--------------------------	--

具体的な取組状況	ICT機器の活用法や実験の時期・進め方について協議を重ね、授業の改善を進めた。校内外での研修をもとに、生徒の探究活動に対する手厚いサポート体制の構築に努めた。
達成状況	外部への発信を通して探究活動に対する意欲が高まり、生徒の思考力や判断力、課題解決能力が鍛えられた。

自 己 評 価	(評価) B	SSH事業を中心に、抱えきれない程の研修会や研究発表などをこなしている。探究活動を通して生徒の意欲や関心は高まったが、なかなか成績に反映されないジレンマがある。
---------	-----------	--

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	生徒の自然科学に対する関心の高まりや、高大連携による成果も見られるので継続した取組を期待する。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○SSH事業を中心とした様々な教育活動(躍進探究)と授業内容(教科教育)との接続を図りながら、生徒の進路実現に向けた組織的取組を行う。 ○学習の成果を発信し評価を受けることで、学習内容の深化を図る。
-----------------------	--

P

D

C

A

重 点 目 標	(1) 体育 ○運動の楽しさ・喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続できる資質・能力を育成する。 ○健康・安全を確保し、公正に取り組む・互いに協力する・自己の責任を果たすなどの態度を養う。 (2) 保健 ○生涯を通じ、個人及び社会生活における健康・安全に理解を深め、改善していくための資質・能力を育てる。	
	(1) 体育 ・自ら考え判断する活動を促すことにより、運動の特性を理解し、種目特有の技術を獲得できるようにする。 ・準備運動及び体つくり運動の中で、各種運動の特性に応じた危険を知らせる。 (2) 保健 ・自他の健康と安全について主体的に考えられるようになるため、発表や意見交換の機会を多くする。	
目標達成のための具体的な手立て(方法)		
目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) 体育 ・新体力テストにおいて、昨年度を上回る結果が得られるなど、生徒の体力が向上または維持される。 ・日常生活の運動場面でも危険を回避できるようになり怪我が減少する。 (2) 保健 ・得た情報や知識により、生涯を通じて健康と安全に留意して生活できるようになる。また、他者の考えを受け入れ、自分の意見をしっかりと伝えられるようになる。	
具体的な取組状況	(1) 体育 ・準備運動及び体つくり運動、体力を高める運動を毎時間導入部分で実施することで、生徒が自ら進んで運動を実践し体力・技能の向上に励むよう努めた。 (2) 保健 ・グループワークを積極的に取り入れることで、発表の機会や意見交換の場を数多く設定し、その中で活発な討議が行われた。	
達成状況	(1) 体育 大きな事故や怪我もなく柔軟性や体力の向上がみられた。 (2) 保健 グループ内で自らの考えを発表することで意見交換が活発になり、グループで1つの答えを導き出すことができた。	
自己評価	(評価) B	生徒自らが率先して体力の向上に励むことができ、運動の特性に応じた危険についても理解することができた。
評価基準	↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ感染症拡大防止の観点から様々な制限があるとは思うが、体力の向上など成果は随所に見られた。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○授業を通して、心身ともに健全な身体づくりを目指す。 ○生徒の主体性を重視し、協働的学びによって思考力と実践力が高まる学習活動を充実させる。 ○新体力テスト等の客観的なデータを活用した自己評価やICTを活用した授業を構想する。	

重点目標	(1) 生徒一人ひとりが自発的に表現活動に取り組めるようとする。 (2) 個性や能力を生かす授業を行い、お互いの表現を楽しめる生徒になる。
------	--



目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 能力の伸長に必要な基礎的な技法・知識を習得でき、興味を持ち、取り組みやすい授業や題材を工夫し表現させる。理解や発想、取り組みを表現の状況から確認する。 (2) 発表(鑑賞)形式の学習活動の場を工夫し、互いの表現を認め合い良さを引き出す。発見や感想が自分の表現に現れている。
---------------------	---

P

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 授業の雰囲気が活発になり、生徒が自主的に活動する。 (2) 生徒一人ひとりが優れた表現を愉しみ、個性豊かな表現につなげられる。
--------------------------	--



具体的な取組状況	(1) 座席配置やコーラスマスクの準備など対策を実施しながら表現活動を展開した。  (2) 多くの鑑賞活動を通して、また実際に観察することで感性を養った。
----------	---

D

達成状況	(1) 声量や距離など制限のある中でも、お互いの発表や制作を認め合い、表現を楽しんでいる。  (2) 鑑賞活動や観察により、丁寧で深みのある表現に繋がっている。
------	--



自己評価	(評価) A	大きな声や、間近で作品について語るような授業に変わる、発表や伝達場面の工夫がなされ、お互いに認め合い、楽しんで授業をすすめている。感性の深まりが発表や作品に見られた。
------	-----------	---

C

- ↑ A : 具体的な活動がなされた目標を達成できた  
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者の評価と意見	(評価) A	感染症拡大防止に努めながら、生徒の創造力を刺激する学習活動を行い、芸術的感覚の発露が見られた。
-------------	-----------	---

C



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○学校行事を含む様々な教育活動を通して、生徒の学習に対する意欲や関心を喚起する。 ○芸術教科における「探究力」の育成につながる、年間計画(評価)の見直しと実践を行う。
-----------------------	--

A

## 評価領域

## 英語科

重点目標	(1) 自律的・主体的な学習者の育成 (2) 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能のバランスが取れた確かな学力の育成 (3) I C Tを活用した課題解決力の育成	
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学習内容の定着度に応じて課題等の与え方を工夫する。生徒の学習時間調査や定期考査等の成績、生徒の授業への参加態度を通じて検証する。 (2) 授業において4技能を統合した(複数を組み合わせた)活動を行う。小テスト、定期考査、パフォーマンステスト等を通して、生徒の学習に対する意識向上を図る。また、授業アンケート等により、指導方法の検証や改善に取り組む。 (3) 生徒全員への端末機器の配付に伴い、I C Tを活用した授業方法について研究し、出来れば数多く実践する。教科内でアイディアを共有したり、研究授業を通じてより効果的な方法を探る。生徒の活動観察やアンケート等で検証する。	
目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) 自律的に学習することで知識・技能の更なる定着が図られる。主体的な学びにより理解が深まり、発展的な学習につながる。 (2) 実践的英語運用力が高まると共に、英語学習へのモティベーションが上がる。また、生徒個々の課題が明確になり、弱点の補強が期待できる。 (3) I C Tをうまく活用することで、授業に対する生徒の関心・意欲を高め、視覚的効果等から理解度が深まることが期待される。また、I C Tにより多様な活動が可能になり、それによって課題解決力の向上にもつながると思われる。	
具体的な取組状況	(1) 模試や考査の時期・内容も考慮し、課題や朝学習を工夫して与えた。習熟度別に内容を分けて学習動画の配信を行った学年もあった。 (2) A L TとのT Tやパフォーマンステスト、課題研究等を通じて、スピーキングやライティングの活動を増やした。 (3) 授業でのI C T活用のアイディアを教科内で共有し、研究授業においてより効果的な方法を提示することができた。	
達成状況	学習時間調査を見ると、小テストの有無で英語の学習時間が左右されるなど、継続して自律的に学習する姿勢はまだ不足している。I C Tに関しては、生徒から概ね良好な反応が見られるが、学力向上や課題解決力の育成につながる継続的な活用方法について、今後も研究していく必要がある。	
自己評価	(評価) B	大学入試でも求められる4技能のバランスが取れた英語力の伸長と、生徒の興味喚起や主体的な姿勢の涵養を目指し、引き続き授業や課題の内容、I C Tの活用を工夫していく。
評価基準	↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A	A L Tとの交流やI C Tなどを活用した授業を構想することで、国際社会で活躍できる人材の育成にも努めた。
自己評価及格に改善	○授業における様々な活動を教師間で共有し、英語の学力向上やS S H(躍進探究)等での表現力・発信力の充実を図る。 ○英語力を向上させるための、日々の継続的取組の充実を図ることで、生徒の進路実現につながる指導を行う。	

重 点 目 標	(1)人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて興味・関心を高めるよう、自分の実生活と結び付けて理解させる。 (2)生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る意欲と実践的な態度を養う。 (3)「ホームプロジェクト」の実践及び発表を通して、生活を科学的に探究する方法やプレゼンテーション能力を育成する。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)生徒にとって身近な題材を取り上げたり、実物の提示や新聞記事やデータを活用するなど、実生活に即した教材の工夫をする。 (2)実験・観察、実習を適宜取り入れ、生徒が興味・関心をもち知的探究心を高める工夫をする。 (3)生活改善という視点を明確にし、長期休業中を有効活用できるようガイダンスを充実する。またICTを活用した発表を取り入れながら効率的・効果的に進める。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)家庭科を身近な教科と捉え、授業に向かう姿勢が積極的になり、主体的に学ぼうとする意欲を高める。また、自己理解を深めるとともに自分、家族、社会に関心をもち、自分らしい生き方について考えることができる。 (2)実験・観察に取り組んだり、作品を完成したりすることにより習得した知識と技術を、実生活で主体的に活用・応用しようとする。 (3)身近な生活から課題を見いだし、解決方法を考え計画・実行・反省という過程を通じて自己解決ができる。またその成果を効果的にプレゼンすることができます。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1)新聞記事や副教材資料、動画などを活用し、興味・関心を高め、実生活に即した題材を取り上げるなど、教材の工夫をした。 (2)計量や切り方の実技テスト、日常食の調理実習、手縫いの作品製作、しみ抜き、読み聞かせなどの実習を適宜取り入れた。 (3)冬季休業中の課題として「ホームプロジェクト」を実施した。
達成状況	(1)家庭科を身近な教科と捉え、概ね積極的に取り組んでいるが、自分事と捉え、自らの生活に結び付けて思考する姿勢には個人差がある。 (2)様々な実験・実習を通して、知識と技術を習得し、実生活に活用・応用しようとする意欲の高まりがみられた。 (3)取り組みに個人差が大きく、課題に対して多角的な視点を持たせる必要がある。

自己評価	(評価) B	意欲的に取り組む生徒が多く、今後もできる限り体験的な学習活動を取り入れ実感を伴った理解と思考が深まるよう工夫していきたい。
------	-----------	---

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	生徒の意欲には個人差があるものの、ホームプロジェクトなどこれからの実生活役立つ取組がなされている。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○男女共同参画社会において、自らが主体的関わる意識を喚起し、そのための具体的な知識や技術の習得ができるような、教育計画の充実と実践を行う。 ○生徒の学習意欲を喚起する教材の精選と学習評価を行う。
-----------------------	--

P

D

C

C

A

重点目標	(1) 情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題解決のために積極的に情報技術を活用して情報収集に努め、解決することができる力を養う。 (2) 問題解決に至る論理的思考力や説得力のある表現方法等を備えた発信力を身につけさせる。 (3) 情報モラルを高め、理性的な判断に基づいた適切な対応を身につけさせる。 (4) セキュリティ意識・知識を高め、安全に情報技術を活用する実践力を身につけさせる。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 初期段階でタブレットPC及びPCに慣れさせ、問題解決に必要なスキルを指導する。 ・情報技術を用いた問題解決の提案、指導を行う。 ・教科「総合」と連携し、課題解決に当たる。 (2) インターネットをはじめとした情報収集方法・分析法を指導する。 ・發表材料となる具体例や数値の示し方など分かりやすい表現を指導する。 (3) 知的財産権や個人情報等の扱いに対する基本的知識や考えを指導する。 ・SNSや動画、画像等の投稿などにおいて求められるモラルを考えさせる。 (4) 安全なパスワードの設定、管理を実践させる。 ・実際の情報漏洩の原因、結果、影響について学ばせる。
---------------------	---

目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) インターネット検索や文書作成等の課題を適正時間内に行うことができる。 ・作業に割かれる時間が減ることにより、考えたり、話し合ったり等が活発にできる。 (2) 自分の調査や分析について自信を持って発表することができる。 (3)(4) 実生活で権利や情報を扱う際に適切な態度、判断を行うことができる。
----------------------	---

具体的な取組状況	一人1台のChromebookが配付され、日常的に検索、PC作業ができるようになった。 ・課題研究のための情報検索やデータの整理、資料作成だけではなく、授業での課題の配付・作業・提出等の活動を行っている。 ・著作権や情報の信頼性に配慮して情報収集、資料作成を行った。
達成状況	・コンピュータ室に縛られずいつでもどこでも作業に取り組め、一人一人のICT活用スキルが向上した。 ・Google Workspace上でファイル共有等を通じて協働作業や意見共有、発表などで学習を深めた。 ・日常的なICT活用の場面で、著作権や個人情報に配慮している

自己評価	(評価) A	積極的に情報技術に触れ、活用する姿勢はある程度身につけさせられた。課題研究を通じて情報発信力を高めた。次年度は中央高校独自の取組を進めたい。
------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	現代社会に必要とされる情報モラルの育成や、ICT活用スキルの向上など、実践的な学びの充実が図られている。
-------------	-----------	--

自己評価及び改善策	学校関係者に基づいて改めた	○情報検索や情報活用など、SSH(躍進探究)の多様な活動を可能にする能力の伸長を図るとともに、他教科との学習内容の連携や接続を計画的に行う。 ○生徒に日常的なICTの活用を促し、効果的な情報発信の手法を身につけさせる。
-----------	---------------	--

P

D

C

C

A

重 点 目 標	(1) P T A活動の活性化に努め、総会やP T A関係行事への参加者を増やす。 (2) 創立100周年記念行事を円滑に進める。 (3) 学年部、他分掌との連携を深めながら、分掌活動をとりまとめ学校運営の円滑化を図る。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) P T A活動に保護者が参加したくなるような内容の精選とPRを図る。活動の活性化のために、P T A主導で企画・運営がなされるよう促す。 (2) 総務部(式典担当)が中心となり100周年にふさわしい儀式にする。 (3) 学校運営の充実が図れるよう、学年部、他分掌との連絡・調整を密にする。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) P T A活動に保護者が理解を深め、行事等に積極的に参加するようになることで、生徒が主体的・積極的に活動するようになる。 (2) 式典が厳肅に行われることで、伝統校としての母校に対する誇りと自覚を養うことができる。 (3) 学年部、他分掌との連携を図ることによって、学校運営が円滑になる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 中央祭では従来の「餅つき」から「野菜販売」に変更し実施した。100周年記念写真展の展示、受付に協力した。 (2) 創立100周年記念式典は、司会をはじめ、生徒が主体的に活躍した。 (3) 行事や会議の日程等の調整をはかった。
達成状況	(1) 中央祭では、「実施できること」をPTAで話し合い、新しい企画を考案し好評を得た。100年写真展に協力いただいた。 (2) 司会をはじめ、生徒が前面に出た厳肅な式典となった。 (3) 学年部、各分掌とは円滑な学校運営のための意見のすりあわせができている。

自己評価	(評価) A	総務部の業務として、数値で測ることは難しいが概ね順調に運営できている。今後も、余裕をもって計画し運営していきたい。
------	-----------	---

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ禍の中、概ね順調に運営できている。立派な100周年記念式典の挙行に感謝したい。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○今後もコロナ禍の中で柔軟な行動や対応を行っていく。 ○学年部、他分掌との連携を深めながら、調整と活動をとりまとめ学校運営の円滑化を図る。 ○PTA活動の活性化に努める。
-----------------------	---

P

D

C

C

A

## 重 点 目 標

- (1) 授業時数を確保し、時間割を円滑に実施する。  
 (2) 新学習指導要領及びSSH事業二期目の円滑な運営を考慮して、教育課程の検討を続ける。  
 (3) 校内規定の教務関係の内容について検討し、必要に応じて改訂を図る。

## 目標達成のための具体的な手立て(方法)

- (1) バランスの良い時間割の作成に努める。また、各分掌と調整を図り、行事及び特別時間割を検討する。  
 【検証】 前期末、年度末に各教科、各クラスの授業時数を調査し、時数に偏りがないかチェックする。  
 (2) 新教育課程作成委員会と連携し、各教科の意見を取り入れながら検討を進める。  
 【検証】 職員会議などの場を活用し検討結果を職員全体で検証する。  
 (3) 内規改定委員会と連携し、生徒の実態に合った教務規定への改訂を図る。  
 【検証】 成績評価、成績処理上の問題が発生しないことを確認する。

## 目標達成により期待される生徒の変容の様子

- (1) 偏りの少ない授業時数確保により、基礎学力の向上につながる。  
 (2) 教育課程の検討にともない、本校に特徴的な探究型の授業を展開することで、自ら課題を発見し、解決に向けて探究し、考えなどを的確に表現する力が身に付く。  
 (3) 適正な成績評価を行うことで、希望に沿ったキャリア形成を進めることができる。

## 具体的な取組状況

- (1) 行事の変更や各学年部からの要望に応じて時間割の調整を図っている。  
 (2) 生徒の実態、SSHを前提とした教育課程を編成した。  
 (3) 今年度は校内規定の改定はなかったが、今後も検討が必要である。

## 達成状況

- (1) 年間全体で見ると、授業時数のバランスはとれている。  
 (2) 新教育課程の新年度の実施に向けて準備が進んでいる。  
 (3) 令和2年度に改定した欠課・欠席時数に関する改訂が効果的である。

## 自己評価

(評価)

A

目標はほぼ達成できたが、共通テストに「情報」が追加されることなどから、今後も教育課程の検討は必要である。新教育課程の運用に向けて、学習内容の評価方法などを今後検討する。

↑  
評価基準  
↓

- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

## 学校関係者の評価と意見

(評価)

A

学校として前向きに計画的に物事を進めている。

## 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策

- 年次進行で導入される新学習指導要領への対応を行う。  
 ○観点別学習評価等の準備を円滑に行う。  
 ○新たな入学者選抜への対応を検討して進める。  
 ○授業時数の確保を図り、生徒の学力向上につながる評価の工夫について検討する。

P

D

C

A

重 点 目 標	(1) キャリア教育の視点に立ち、SSHの成果を踏まえながら、生徒の進路目標の達成に向けて系統的・計画的な取り組みを展開する。 (2) 自ら主体的に学ぶ力を育て、基礎・基本の定着をもとに学力の向上を図る。
---------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 高校3年間を見通した系統的・計画的な進路指導計画の立案と実践 ・「ステディサポート・GPS-Academic」や進路志望調査を実施し、有効に活用する。 ・SSHの成果を生かした総合型・学校推薦型選抜入試への対策を充実する。 (検証) 「ステディサポート・GPS-Academic」や進路志望調査結果の分析、アンケートの実施、進学実績 (2) 学習規律の徹底と学力向上に向けた指導の充実 ・教科の特性に応じた学習スタイルの確立、ペル即、家庭学習の習慣化を徹底する。 ・朝学習や小テストのねらいを明確にするとともに、夏・冬季講習の工夫によって、個々のレベルに応じた実践力や応用力を養成する。 ・大学入学共通テストにむけて、教務部、研究部等とも連携し、校内研修や授業改善の工夫等に取り組む。 ・授業力向上のための、教員研修（予備校研修、先進校視察等）を実施する。 (検証) 学習時間調査の実施、授業や考查、模試による学習事項の定着度
---------------------	--

目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) 主体的な進路意識が高まり、高い目標を持って努力するようになる。 (2) 授業への取組が積極的になり、基礎学力が着実に定着する。
----------------------	--

具体的な取組状況	(1) コロナウィルスの影響はあったものの、オンラインで文理選択ガイダンスや大学模擬講義を実施し、生徒の進路意識の向上を図った。 (2) リモートによる各種説明会に積極的に参加し、情報共有できた。
達成状況	(1) 総合型・学校推薦型選抜については、今年度は厳しい結果だった。全校での指導体制の確立が急務である。教務と連携して校務支援システムを有効に活用し、調査書の発行などを行うことができた。 (2) スタディサポート・GPS-Academicなどの外部教材を活用したり、学習時間調査・進路希望調査などを継続して行い、主体的に学ぶ力の育成を図った。

自己評価	(評価) A	重点目標の達成と各学年における進路指導の継続的な充実に向けて、進路指導部としての共通実践事項と学年裁量部分との調整及び共通理解を図ることが出来た。
------	-----------	---

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	総合型・学校推薦型選抜は少々残念な結果であったが、校務支援システムや外部教材等の有効活用は十分評価できる。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○難関大学への入学者数増加につながる組織的指導を行う。 ○各学年の取組による成果と課題を共有し、包括的に進路指導の質の向上を図る。 ○学力保障するための授業改善と教員研修等に継続して取り組む。
-----------------------	--

## 評価領域

## 生徒指導部

重点目標	良識ある社会人になるためにルールを遵守する態度を身につけるとともに、秋田中央高校の一員として節度ある行動ができるようとする。
------	--



目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 登校指導、学年集会及びLHR等を通じ、あいさつの励行、遅刻の防止、ルールに則った身だしなみ、情報モラルの向上に係る指導を行い基本的生活習慣を育成する。 (2) 交通安全週間や登下校指導を通じ、交通ルール・マナーを遵守する態度を養う。 (3) 学校行事等を通じ、集団の中の一員として協調性や他者を思いやる心を育成する。
---------------------	--

P

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 規律ある生活を送ろうとする生徒の意識が向上する。 (2) 交通ルール・マナーを守る意識が向上し、通学時における交通事故が減少する。 (3) 他者を尊重する豊かな心が育成される。
--------------------------	--



具体的な取組状況	(1) 昇降口での挨拶、遅刻防止及び身だしなみを整える指導を、週3回のペースで、生徒指導部職員が中心となって実施した。 (2) 登校指導は、生徒指導部職員が毎朝交替で学校周辺の危険な十字路を重点的に実施した。下校指導は、学校から土崎駅周辺を生徒指導主事が随時実施した。年3回の全職員による交通安全指導は予定通り実施できた。 (3) 学校行事の準備活動、HR活動等において、学年の職員が中心となって指導した。
----------	---

D

達成状況	(1) 挨拶しない(できない)、遅刻を繰り返す生徒が若干いるが、大多数は制服の着こなし等も含め規律ある学校生活を送っている。 (2) 自転車の並列走行等の危険な状況が見られるが、2人乗りや傘さし運転は4~5年前に比べ改善された。警察から注意を受けた生徒も数名である。命に関わる事故も発生していない。 (3) 素直で優しい生徒が多い。
------	--

C

自己評価	(評価) A	他分掌、学年部及び管理職との連携のもと、毎日の登校指導はじめ予定した活動が滞りなく実施できた。生徒も落ち着いて学校生活を送っている。
------	-----------	--

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

C

学校関係者の評価と意見	(評価) A	主任を中心に登下校指導の成果は計り知れない。学校の安全安心の要たる生徒指導の充実に感謝したい。
-------------	-----------	---

A

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○学校教育活動全体を通して、生徒指導を粘り強く進めていく。 ○生徒の登下校時の交通安全指導を継続する。 ○ルールを遵守する態度を身につけ、中央高校の一員として節度ある行動ができ、協調性や思いやる心を育成する。
-----------------------	--

重 点 目 標	(1) 部活動を通じて人間力の涵養に努めるとともに、部活動に所属する生徒の学習面での課題を解決し、プライドをもって活躍できる生徒を育成する。 (2) 生徒会の運営を活発にして、生徒が全員参加し、自主的な運営による中央祭、球技大会等各種行事の内容の充実を図る。 (3) 日常的な活動を取り入れた各委員会活動を通して、充実・活性化した生徒会を目指す。	
	(1) 学年部、部活動顧問等の関係分掌との連携を密にし、各部毎に練習計画を調整して、積極的に学習会、補習、模擬試験等へ参加させる。 (2) 各行事の計画内容を早めに周知徹底し、十分な準備期間が確保できるよう配慮するとともに、地域との連携を積極的に図っていく。 (3) 自主性と責任感をもった委員会活動を開催し、生徒個々の学校生活の充実を図る。	
目標達成のための具体的な手立て(方法)		
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 部活動と学習との両立によって心身が磨かれ、進路希望の達成が図られる。 (2) 学校行事のさらなる充実と、生徒個人が本校生としての誇りを持つことができる。 (3) 委員会が十分に機能し、その役割を果たすことによって生徒会活動の活性化が図られる。	
具体的な取組状況	(1) 補習、模試だけでなく、スタディジョギングにも積極的に参加した。 (2) 生徒会執行部が中心となって昨年度から企画を練り、生徒の安全と感染対策を念頭に置いた新たな学校祭の形を探った。 (3) 各委員会顧問の指導の下、活動計画に沿って活動した。	
達成状況	(1) 部活動への取り組みはもちろん、学習活動にも積極的に参加することで心身の成長に繋がった。 (2) 学校祭では模擬店、合唱コンクールなど感染対策を徹底し、人数制限はあったが保護者にも参加してもらい、ほぼ例年通りの活動を実現できた。また、地域の商品を販売することで連携を深めると共に、校外に活動を発信することができた。 (3) 委員会主導で活動を計画したり運営したりする場面を多く作ることができた。	
自己評価	(評価) A	コロナ禍で活動が制限される中、先生方の理解と協力により、部活動や学校行事など最大限可能な範囲で実施できたと思う。
↑ 評価基準 ↓	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ禍の中、部活動や学校祭等において生徒の自主性を尊重し、活動可能範囲で実施できたことは素晴らしい。
自己評価及び学校関係者による改善策	○生徒の意見を反映させるなど、生徒主体の活動を支援する。 ○部活動や生徒会活動において、関係分掌の連携を密にして、計画等の調整を図り、見通しを持った取組を行う。 ○練習計画に基づく部活動と学習時間の確保により、文武両道を図り、活動の成果を進路実現に生かす。	

重 点 目 標	自己や周囲の健康課題に対して、適切な対応ができる能力の育成を図る。	
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 健康教育・保健指導を通しての健康意識の啓発・徹底 ・感染症予防を含めた健康維持に関する情報の発信（保健だよりの発行・掲示、ポスター掲示、生徒会保健委員会による中央祭展示等の啓蒙活動等） ・健康講話（性教育講話）、発達障害に関する職員講習、救急救命講習の実施 ・教科との連携による健康教育 ・学年部や部活動との連携による生徒の健康実態の把握と健康課題の発見およびそれに基づく保健指導 (2) 学習環境の整備・指導 ・生徒による清掃活動が円滑に行われるよう、清掃方法等を明確に提示し、用具や備品の点検整備に努め、日常的に清掃状況を確認・指導する。 ・学年部や部活動との連携、および生徒会の保健委員会や美化委員会の活動等を通して、日頃から環境美化の意識を持つよう啓蒙に努める。	P
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 健康の大切さを理解し、自分で健康管理することの重要性を認識することで、適切な判断・行動ができるようになる。 (2) 学習環境を整備することが健康につながり、学習効果にも反映されることを認識し、主体的に学習環境を整える姿勢が身に付く。	
具体的な取組状況	(1) 主にコロナウイルス感染症に対して、県内の感染状況に応じて情報提供や注意喚起を行った。発達障害に関する職員研修、救命救急講習、2年生を対象にした性教育講話は無事に行うことができた。 (2) 清掃用具の他、手指消毒液や加湿器・換気扇など、事務室や生徒保健委員等と連絡を取りながら適正な整備と使用に努めた。	D
達成状況	おおむね達成できた。生徒保健委員もクラス内の保健活動や学校祭の展示などに協力して当たった。	
自己評価	(評価) A	まだ不十分なところはあると思うが、主に感染症に対する予防意識の涵養と、学習環境の整備を一定程度達成できた。
↑ 評価基準 ↓	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	C
学校関係者の評価と意見	(評価) A	コロナ禍の中、手指消毒液や換気扇の使用など教職員と生徒が一体となって拡大防止に努めた。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○今後も継続して、感染症防止対策の重要性を認識して生徒へ指導の充実を図る。 ○自己と周囲の人の健康の大切さに配慮した生活が送れるように指導する。	A

重 点 目 標	(1) 生徒の自主的な学びや生きる力を育む環境としての図書館づくり (2) 生徒・職員の図書館利用の促進と生涯にわたる読書習慣の育成 (3) 生徒用 GigaSchool 機材、職員が利用する視聴覚機材の管理と研修	
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 図書委員会活動の活性化 ・図書委員会による企画行事（他校交流、古本市など） ・図書館だより「続 Oasis」と図書館報「緑園」の定期発行 (2) 図書館、図書委員会による広報・啓発活動の充実 ・授業やSSH、小論文指導で活用できる図書の充実 ・県立図書館・市立図書館からの相互貸借によるリクエスト本の手配 (3) 視聴覚機器の管理 ・生徒用端末の管理、Google for Education の設定、管理、研修 ・会議室・大講堂、アリーナの機材の確認と使用方法の周知	P
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 図書委員の活動の機会が増え、積極性が培われる。 (2) 読書習慣が身についた生徒が増え、探究心が高まり、読解力が向上する。 (3) ICT機器を日常生活や授業理解に活用する意識が培われる。	
具体的な取組状況	(1) 学校祭での古本市、POPコンクールの運営。他校生徒とのPOP交流への参加。図書館だより「続 Oasis」と図書館報「緑園」の発行。 (2) 健康かるた作りや絵本の読み聞かせ、ビブリオバトルなどの実施。各授業での使用。図書館オリエンテーション、新書読書記録における読書指導。SSH、小論文指導で活用できる図書の購入。授業に合わせた相互貸借の実施。 (3) 端末利用の指導。修理対応。Googleアカウントの管理。Zoom等への対応。	D
達成状況	(1) 学校祭は入場制限があったものの、古本市とPOPコンクールの投票は盛況であった。他校生徒とのPOP交流にも意欲的に参加した。図書館だよりや図書館報の執筆に、図書委員がもう少し携わることができればよい。 (2) 図書館オリエンテーションや新書読書記録への取組で、貸し出し生徒が増え読書への拒否反応は減少したと考えられる。3年生の受験対策の小論文の書き方や進路に応じた内容の新書などが多く借りられた。相互貸借は適切に実施されている。 (3) 日常的にタブレット端末、電子黒板が利用されている。利用頻度の高さ故か端末故障多発に苦慮。次年度保証終了後について検討いただいた。	
自己評価	(評価) A 図書館司書の方が授業における相互貸借や躍進の授業へのアドバイスなどもやってください、適切に図書の購入を行うことができた。学級や教科でタブレット端末、電子黒板を活用できた。	C
↑ 評価基準 ↓	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A 図書館の活用について、様々な工夫と取り組みが素晴らしい、今後も継続を期待したい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○生涯学習につながる様々な企画や授業のサポート、図書館内の環境整備等の充実を図る。 ○図書館、図書委員会による広報・啓発活動の充実を図る。 ○今後もICT活用の充実を継続して進めて、個別最適化につながる活用をさらに図る。	A

重点目標	(1)生徒が主体的・協働的に活動し、探究していく中央高校型授業スタイルを確立させる。 (2)職員が効果的に研修できる環境作りに努める。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)・10月に授業参観月間、12月に授業研修会を実施し、教科の枠を超えて授業を参観しあい、協議することによって授業改善を図る。 ・授業アンケートによって授業の改善点を把握するとともに、生徒が授業に求める水準を明確にする。 (2)・職員研修がより効果的に実施できるよう、現状をふまえて必要な研修内容や時期を設定する。 ・校外研修を案内し、参加を呼びかけるとともに、本校を会場とする研修会に協力する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)主体的・協働的に授業に臨むことによって、自ら課題を解決していく力が育つ。 (2)職員研修の成果が生徒に還元されることにより、授業に対する意欲が高まる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1)・第二回指導主事訪問及び授業研修会「ICTの活用」と「対話を意識して考えを広げ深める授業」を重点課題とした。 ・授業アンケートをタブレットを用いた簡易な形で実施した。 (2)ICT推進委員会と連携してJamboardを用いた研究協議を行った。
----------	--

達成状況	(1)・研究授業では、対話を通して考えを深める授業の中で、いかにICTを効果的に使うかについての提案がなされた。 ・授業アンケートは結果をどう活用するかが今後の課題である。 (2)ICTを活用した研究協議は、新たな授業改善のあり方を模索する契機となった。
------	---

自己評価	(評価) A	Jamboardを使用した研究協議を全体で実施できた。実施にあたり先生方の御協力に感謝したい。今後、研究協議をより活性化する方策を検討していきたい。
------	-----------	--

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 ↓ 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	Jamboardを利用した研究協議を積極的に取り組んでいることは素晴らしい。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○今後もICTを活用した研修会の工夫を図る。 ○授業研究会の効果的な在り方を模索する。 ○「課題解決力」を育成するために、教育活動全体をとおして「対話力」を高める授業改善の取組は今後も継続していく。
-----------------------	---

P

D

C

C

A